

ピオーネのホルモン処理と房づくり

1回目のジベレリン処理（無核化処理）が終わると、数日で結実が確認できるようになります。ピオーネの着果量制限や房づくりは、2回目のジベレリン（またはフルメット）処理までに行うと、果粒肥大促進や省力化に効果的です。

ニューピオーネは大粒・種なし・高糖度の紫黒色のブドウですが、着果量が多いと糖度や着色が不良になります。ピオーネ本来の果粒肥大、着色、糖度に仕上げるために、結果量制限、摘粒を適正に行いましょう。

1 花穂の切り込み

- ・ 開花直前～開花期にかけて、花穂先端の長さが3～3.5cm になるように切り込みます。
- ・ 花穂先端部の花蕾が少ない場合は、やや上段（基部寄り）を残しておきましょう。
- ・ 花穂先端部の花蕾が少ない場合は、やや上段（基部寄り）を残しておきましょう。
- ・ 早めに切り込む場合にはやや小さくしておきましょう。

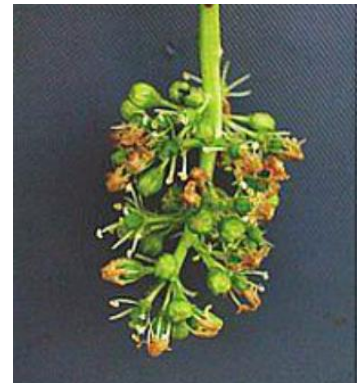


図1 花穂切り込み

2 ホルモン処理

(1) 1回目ジベレリン処理（種なし処理）

【時期】 全ての蕾が開花した日～3日以内

【濃度】 ジベレリン 25ppm (50mg/2 ㍓) 液を果房に浸漬
(曇天が続く場合はフルメット 2.5ppm (5ml/2 ㍓) 程度を混用)

【方法】 すぐに乾かないように、夕方に実施します。

(2) 2回目ジベレリン処理（果粒肥大処理）

【時期】 1回目ジベレリン処理の10～15日後

【濃度】 ジベレリン 25ppm (50mg/2 ㍓) 液またはフルメット 5ppm
(10ml/2 ㍓) 液を果房に浸漬

【方法】 乾きやすいように晴天日の午前中に実施します。

余分に着いた薬液は2～3回ふり落とします。

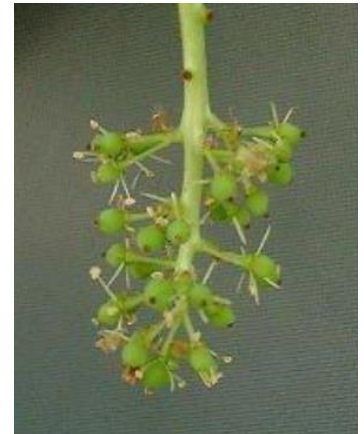


図2 1回目ジベレリン処理適期

3 房づくり

500～600g（2kg箱で4（～5）房詰め）を基準に房づくりを行います。

表1 最終着果量の目安

	着果量(kg)	房数
10a 当たり	1,500	2,700
1m ² 当たり	1.5	2.7

(1) 1回目の摘房

- ・ 1回目ジベレリン処理の4～5日後から開始しましょう。
- ・ 摘粒前にまず摘房を行い、最終着果量（表1）の2割増し程度に制限します。
- ・ 房形の悪い房、着粒の多すぎる房を優先的に落としましょう。
- ・ 葉色が薄く開花後の新梢伸長が弱い樹や、葉面積の少ない樹は、摘房を早めに行い、着房数も少なめにしましょう。

(2) 1回目の房づくり

- ・ 摘粒の前に、房の上部（肩）と下部（先端）を決めましょう。
- ・ 肩は小花穂が2～3段揃った位置とし、先端も小花穂が揃った位置で決定します。
- ・ 房の軸長は、2回目ホルモン処理時点で5～6cmとなるようにします。
- ・ 房の中間部の、内側に入り込んだ粒を主体に摘粒し、40粒程度にしましょう。

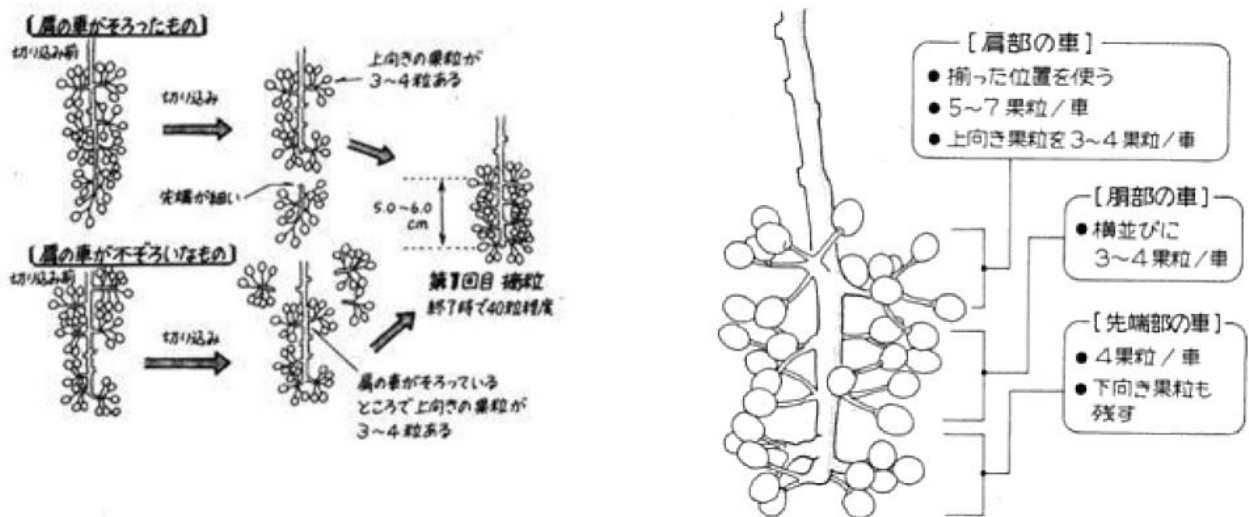


図3 ピオーネの摘粒例

拡大図

(注) 左図では中間の粒を省略しています（除去するものではありません）。

(3) 2回目（最終）の摘房と房づくり

- ・ 果粒軟化期 10 日～2 週間前頃に、最終着果量に制限しましょう。
- ・ 果粒の混み具合を確認しながら、35～40 粒に摘粒しましょう。
- ・ 果粒が表面に整然と並ぶように、粒を並び替えましょう（玉直し）。

4 新梢管理

- ・ 新梢が盛んに伸長している樹は、副梢の摘心、ねん枝、枝の引き下げを行きましょう。
- ・ 副梢は着房節～基部寄りの節は 2～3 枚程度、これより先の節は 1 枚程度で摘心し、先端は数枚を残して摘心しましょう。

5 病虫害防除

- ・ 6 月は気温と湿度がともに高くなり、病虫害が発生しやすくなります。
- ・ 灰色かび病、晩腐病、うどんこ病、スリップス、ハダニ類の防除を徹底しましょう。

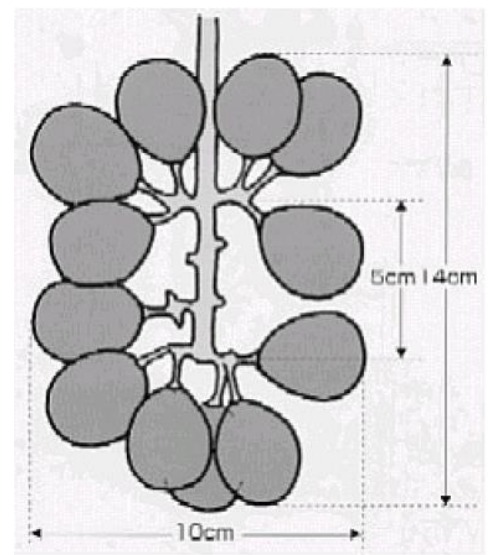


図4 目標の房形
(中間粒は省略しています)